
セツと姉

ツキミサト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

セツと姉

【Nコード】

N7417D

【作者名】

ツキミサト

【あらすじ】

学園では才色兼備で通っている姉の実態を知る者は少ない。そんな姉の実態を知っている弟であるセツと姉の話。

学園では才色兼備で通っている姉の実態を知る者は少ない。

なにせ、家で二人きりになると毎度のように突拍子もないことを唐突に言い出すのだ。

まあ、2人して黙々と過ごしすのも味気ないから、それもいいと思っっていたが、

「セツ、驚かないでね。子供はね、コウノトリに運ばれてくるんじゃないのよ!」

などと、真顔でのたまわった時にはどう反応すればいいのか思いつかなかった。

「姉さん……」

なにやら突っ込むべきなのかわからず、なんとかそれだけを呟く。

だが、姉はそれを別の解釈に受け取ったらしい。

「だからね、わたし達は本当の姉弟じゃないの」

そんな事実にはショックを受け驚いているという解釈に……。

残念ながら、それは違う。当時3歳だった自分には本当の両親の記憶も、

色々あった末に引き取られた記憶も、きちんとあるのだ。

（ふっふっふ、ナユ。今日はコウノトリさんが弟をプレゼントしてくれたわよー）

そういえば叔母さんはそんなこといって姉さんに自分を紹介したっけ。

「大丈夫よ、セツ。わたしはそんなこと気にしないし」

（むしろ、本当の姉弟じゃないから結婚だって……。ぐふふふ）などと、姉が不気味な笑いと妄想を繰り広げるのはいつものことと半ば諦めながら、

後半の呟きが聞こえなければ良かったのになあ、と嘆息する。

しかし、まあ、なんというか…。

「コウノトリをいまだに信じていたんだ」

その言葉で、姉はやっと自分の勘違いに気づいたらしい。

ショックを受けているのではなく、呆れているという事実に。

「セツは知っていたのね、いじわる」

「いや、普通知ってるだろ」

「そうやって、自分の常識を世間に当てはめらなうて教えてきたわよね？」

「いや、それ姉さんのほう」

ときどき、姉は無茶を言う。

だいたい、コウノトリを世間一般の常識にするのは無理がある。

「てか、学校でも習っただろ」

「日本の学校なんて外面とテストだけでどうにでもなるわよ」

そのあたりは詳しくテストにでないから勉強しなかつたし、

それになんとかなく恥づかしかつたしとか言い訳っぽく告げる。

「それといじわるってどういう意味だ？」

「わたしはコウノトリって愛し合ってる2人がキスしたり、

抱き合ったりすると赤ちゃんを運んでくると思っていたの」

頭が痛くなってきた。なんで、こんな人が優秀なんだろう？

「だからね、そういうことをするのはセツが働き出すまでって我慢してたの」

「ええと、そのまま一生我慢していてくれるとありがたい」

そんなことをいいながら抱きつこうとしてくる姉をかわして、本心からそう言いたため息をついた。

（後書き）

このたびは、最後まで読んでいただいております。少しずつでも書いていきたいと思っていますので、よろしくおねがいします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7417d/>

セツと姉

2011年10月4日20時07分発行